

14 世紀初頭南仏トゥールーズ東部地方における 「善き人」の信仰拡大経路について

文学研究科 哲学歴史学専攻西洋史学専修
博士後期課程 2 年 小森 紗季

初めに

「中世ヨーロッパ最大の異端」として知られ、11 世紀から 14 世紀初頭にかけて南フランスやイタリアを中心に活動したとされる「カタリ派」は、現在その存在について疑問が投げかけられている。東方起源の異端であると考えられてきた「カタリ派」は、1960 年代からグレゴリウス改革に端を発する民衆由来のキリスト教徒と考えられるようになり、「カタリ派」とされた人々の実態やその信仰伝播に関する研究が盛んに進められてきた。その後、1990 年代にはいと、「カタリ派」という呼称はローマ教会や権力者によるレッテル張りであったとの指摘がなされ、「カタリ派」として断罪された信仰の中心人物に対して信者自身が用いた呼称＝「善き人」が研究者によって用いられるようになった。「善き人」とその周辺の信者に関する紐帯については 1960 年ごろから考察されるようになったものの、当時は「カタリ派」という制度的教団が存在する前提で研究が進められており、「善き人」を中心とした信仰集団の実態把握はあまり進んでいないといえよう。そこで、本発表では、14 世紀初頭に南フランスを中心として自説の布教を行った「善き人」ピエール・オーティエとその信者集団に注目し、彼ないしその信者が周囲の人々とどのように接触し、どのように信仰を拡大させていったのかについて考察する。

史料と研究方法

本研究では、14 世紀初頭に南仏の大都市トゥールーズで異端審問官として活躍したベルナル・ギィの手による『判決集』を用いる。これは、異端審問官である彼が 1308 年から 1323 年にかけて言い渡した 20 回の判決文すべてを集めた記録であり、異端の嫌疑をかけられた被告人の氏名や出身地、判決内容、供述内容の一部が残されている。『判決集』で取り上げられる被告人の数は 800 名を超えており、トゥールーズ東部地域に被告人が集中している(図 1 参照)。次に研究方法について説明する。本発表では、『判決集』に付された索引を利用して、被告人が 20 名以上居住する共同体と被告人 10-20 名が居住する共同体を抽出する。その後、上述の共同体(被告人が 10 名以上居住している)が密集している地域に注目し、この地域の範囲内に居住する被告人に限定して、彼らに対する判決文を、「善き人」と当該被告人が接触した経路に注目して徹底的に読解・分析する。その際、「善き人」と被告人の接触経路を以下のように分類する。

1. 他者の紹介を通じて「善き人」を知る
 - (ア) 血縁関係、婚姻関係あり: 兄弟・親子関係、親戚関係
 - (イ) 血縁関係、婚姻関係なし: 同じ共同体居住

2. 他者の紹介を介さずに直接「善き人」を知る
 - (ア) 親子・親戚関係のある人の家で知り合う
 - (イ) 同じ共同体の他人の家で知り合う
 - (ウ) 知り合った経緯の言及がない
3. その他の事例
 - (ア) 被告人死亡／逃亡により接触経路不明
 - (イ) オーティエ登場以前の別の「善き人」と知り合っている
 - (ウ) 「善き人」とは知り合っていない

以上の分類にしたがい、接触経路ごとに人数を集計する。また、1-(ア)と2-(ア)を「血縁」、1-(イ)と2-(イ)を「地縁」としてカテゴライズして、接触経路の性格についても分析を行う。

結論と今後の課題

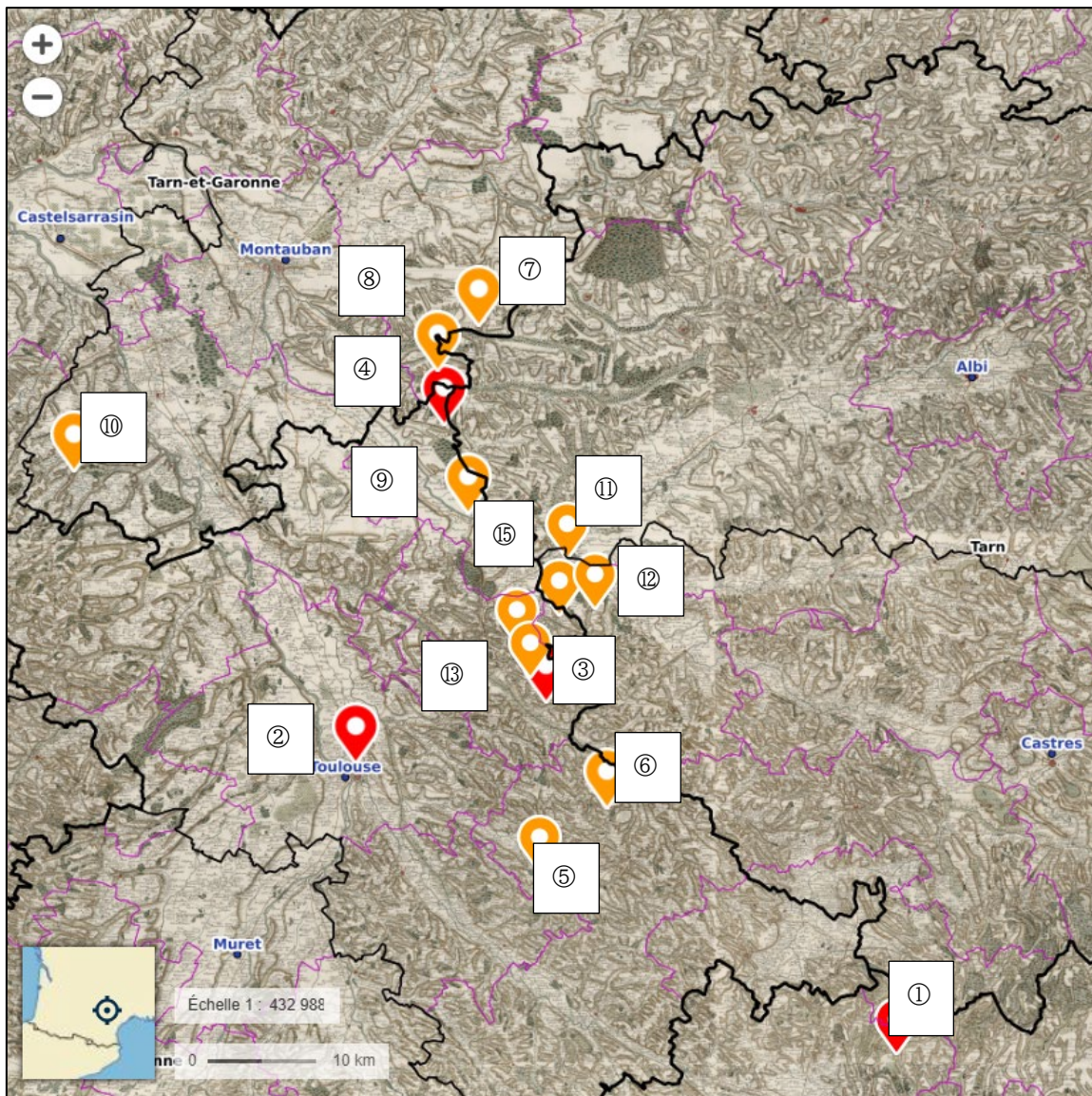
接触経路の類型とその合計数は表1のとおりである。他者の紹介で「善き人」と接触する事例が最も多くあげられる。この場合、親子や兄弟間といった血縁関係を持つ人が最も多くあげられる。一方で、地縁を介した紹介も少なからず存在しており、「善き人」の信仰が拡大するにあたって地縁もある程度重要であったと言える。また、判決文では「善き人」に会いに行くためによその特定の共同体へ出かける事例が複数確認されており、「善き人」が滞在している共同体は北の地域ではボルン、南の地域ではトゥールーズやラ・ガルド・プレ・ド・ヴェルフェイユというようにある程度固定されていたと考えられる。また、基本は血縁による接触経路が優位になるものの、トゥールーズやプリュネ、ブイヤックでは地縁による接触経路が多く、レ・ズグでは地縁と血縁による接触経路が同数になることから、トゥールーズ近辺の共同体では地縁による信仰拡大が強く、共同体によって差異がみられることが特徴である。

本報告では、「善き人」と被告人の接触経路に注目し、経路を類型化することで、接触経路として血縁が優勢であるものの、地縁の影響も無視できないという点や、地域ごとに差異が存在することを明らかにした。しかしながら、その差異を生み出す要因については明らかにできていないため、今後はトゥールーズ周辺の地域史や当時の政治・権力情勢などを詳細に把握したうえで、こうした傾向が生じる背景について探っていく所存である。

参考文献

- A. Pales-Gobilliard, éd. et trad., *Le livre des sentences de l' inquisiteur Bernard Gui, 1308-1323*, Paris, 2002.
- C. Vilandrau, « Inquisition et "sociabilité cathare" d' après le registre de l' inquisiteur Geoffroy d'Ablis (1308-1309) », *Hérésis*, 34, , 2001.
- J. Théry, « L' hérésie des bons hommes. Comment nommer la dissidence religieuse non vaudoise ni béguine en Languedoc (XIIe-début XIVe siècle) ? », *Heresis*, 36-37, 2002.
- W. Kasdan, *Les femmes dans le livre des sentences de Bernard Gui (1308-1323). Rôle et sociabilité en milieu hérétique*, mémoire de Master 1, université d' Angers, 2016.
- 小田内隆「異端の歴史を描くこと—R. I. Moore の研究を中心に」、『立命館文學』、673 巻、2021 年、1218-1199 頁。
- 小田内隆「「カタリ派教会」像の再検討」、『立命館文学』、669 巻、2020 年、98-117 頁。
- 図師宣忠「彷徨える異端者たちの足跡を辿る—中世南フランスにおける異端審問と「カタリ派」迫害—」、『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史：紛争と秩序のタペストリー』、ミネルヴァ書房、2015 年、373-395 頁。
- 図師宣忠「13 世紀都市トゥールーズにおける「異端」の抑圧と文書利用—王権・都市・異端審問の対立と交渉の諸相—」、『史林』、95 巻、2012 年、74-109 頁。

図 1 『判決集』に現れる被告人の居住地
(赤は被告人 20 人以上、黄色は 10 人以上の村落共同体)



Géoportail のカッシーニ地図(carte de cassini)を用いて報告者が作成。黒線は県境、ピンクの線はEPCI の境界線、青い地点は県を中心地を表す。

共同体名と地図上の位置

- ① ウェルダン・ローラゲ(Verdun-Lauragais)
- ② トゥールーズ(Toulouse)
- ③ ラ・ガルド・プレ・ド・ヴェルフェイユ(La Garde près de Verfeil)
- ④ ボルン(Born)
- ⑤ プルネ(Prunet)
- ⑥ レ・ズグ(Les Hugous)
- ⑦ モンクラール・ド・クレシー(Montclar-de-Quercy)
- ⑧ ヴェルハック・テスコー(Verlhac-Tescou)
- ⑨ ミルボワ・シュル・タルン(Mirepoix-sur-Tarn)
- ⑩ ブイヤック(Bouillac)
- ⑪ サン・シュルピス・ラ・ポワント(Saint-Sulpice-la-Pointe)
- ⑫ リュガン(Lugan)
- ⑬ サン・ジャン・プレ・ド・ヴェルフェイユ(Saint-Jean près de Verfeil)
- ⑭ フェルス(Ferrus)
- ⑮ アザス(Azas)

表1 共同体ごとの在住被告人と「善き人」の接触経路

共同体名	接触経路								
	1- (ア)	1- (イ)	2- (ア)	2- (イ)	2- (ウ)	3- (ア)	3- (イ)	3- (ウ)	
ボルン	5名	4名	8名	3名	12名	9名	0名	0名	計41名
モンクラール・ド・クレシー	1名	0名	3名	0名	0名	6名	0名	0名	計10名
ヴェルハック・テスコー	6名	0名	5名	1名	4名	1名	0名	0名	計17名
ミルポワ・シュル・タルン	2名	6名	7名	0名	1名	2名	0名	0名	計18名
レ・ズグ	4名	1名	0名	3名	3名	0名	0名	0名	計11名
プリュネ	3名	6名	0名	2名	5名	3名	0名	0名	計19名
ブイヤック	3名	5名	1名	1名	4名	4名	0名	0名	計18名
トゥールーズ	2名	2名	0名	1名	13名	4名	1名	0名	計23名
アザス	2名	3名	2名	0名	2名	1名	0名	2名	計12名
サン・ジャン・プレ・ド・ヴェルフェイユ	2名	1名	2名	0名	3名	2名	0名	0名	計10名
サン・シュルピス・ラ・ポワント	4名	1名	0名	1名	4名	1名	0名	0名	計11名
リュガン	3名	2名	3名	1名	2名	0名	0名	0名	計11名
フェルス	2名	2名	2名	1名	2名	1名	0名	0名	計10名
ラ・ガルド・プレ・ド・ヴェルフェイユ	6名	2名	2名	1名	3名	3名	1名	1名	計19名
	計45名	計35名	計35名	計15名	計58名	計37名	計2名	計3名	

接触経路については、報告者作成。各共同体の被告人の合計数は、A. Pales-Gobilliard, *Le livre des sentences de l' inquisiteur Bernard Gui*も参照した。